

6.5 教育の質の向上

進捗状況報告

2006年度より、FD委員会が設けられ、FDに関する研究と教員対象の研修を行うこととなった。その中ではとくに、シラバスに基づく授業運営を行うことが課題とされ、2007年度より、最低限含まれるべき内容について指針を定め、個々の情報を充実させて、いっそう充実したシラバスの作成が行われるようになっている。授業評価については、2007年度より全学的に導入されることとなった。学生の授業評価を受けて、担当授業へのフィードバックや研究科のカリキュラム見直しが行われるサイクルが効率的にできあがるよう、今後さらに検討していく必要がある。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2008年度キリスト教思想・文化コースを置くにあたっての履修要項・履修モデル・シラバスなどについては、2008年度に向け準備中である。

学内第三者評価

2008年度からの「思想・文化コース」の開設に向けて、履修要項・履修モデル・シラバスなどをよく準備することが望まれる。このコースからキリスト教関係の立派な研究者が輩出するように、また社会人として評価の高い人材が養成できるように努力されることを期待する。

2007年度より大学院設置基準が改正され、シラバスの作成およびFDの両方が義務化されている。
(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第十四条の三

大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・大学院では少人数教育が行われるところから、授業評価アンケートの形式にも配慮が必要になるだろう。多くの大学で、大学院のFDは共通教育などに比べて遅れ気味であるが、少人数対象のアンケート項目が整備されると、大きな一歩になると思われる。